

# PFASその後 千葉県議会で質問しました

川口絵未

PFASはPFOS/PFOAなど「発がん性がある」「疑われる」有機フッ素化合物の総称です。油、汚れ、水を良くはじき、熱に強いので、フライパンのコーティング剤や、航空機火災時の泡消火剤などに使われてきました。日本の暫定指針値は、PFOSとPFOAの合計で1リットルあたり50ナノグラム（ng/L）。近年、沖縄や東京多摩地区、神奈川など米軍基地周辺で高濃度が確認され、各地で問題になっています。PFAS濃度の測定や対策は義務付けられておらず、自治体の判断で調査・対応しています。

前号で、千葉県は2023年から河川・湖沼の水質を測定。暫定指針値を超過したのは、白井市の金山落（かなやまおとし）で270ng/L、千葉市葭川で57ng/Lの2か所で、原因は不明とお伝えしました。

## ◆現地調査で大発見！

8月のPFAS学習会の翌日、講師の植田武智さんから、千葉県環境研究センターが、2007年から2012年にかけて、県内の公共用水域のPFAS調査をした論文を見つけたという連絡が入りました。PFASが問題視されるはるか前です。調査対象は県内河川36か所、印旛沼23か所、手賀沼19か所に及び、市原港から東京湾に流入するPFOAの負荷量が、東京、神奈川の6河川から流入する合計量に匹敵する可能性など、貴重な研究論文です。この中に、金山落の高濃度の数値が記載されていました。

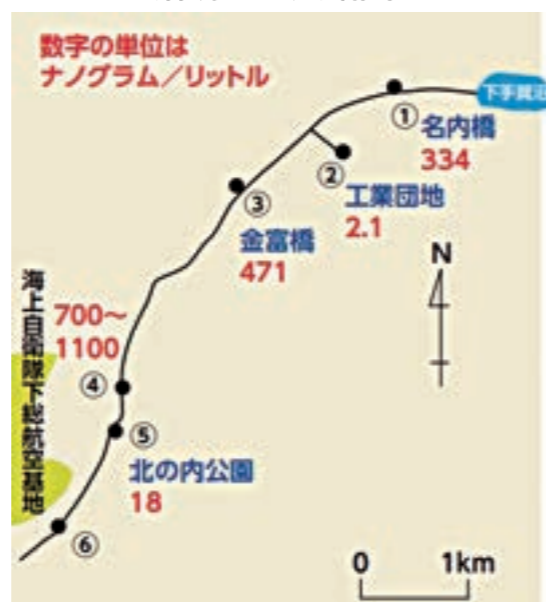
早速、8月10日に現地調査を行いました。金山落の用水路をたどっていくと、上流に、なんと海上自衛隊下総航空基地が現れたのです！ 基地のすぐ北部が700～1100ng/Lです。下総基地には、3年前まで5140リットルのPFOS含有消火剤が保有されていたことがわかっています。訓練に使ったのか、排水処理はどうなっているのか明らかにする必要があります。

## 編集後記

能登半島地震が起きて、自宅の地震への備えを見回すと、備蓄食料の期限切れ、家具の転倒防止のぐらつきがみつかり、ちゃんとしなければと気を引き締めました。今回の地震でも、避難所では相変わらずの雑魚寝、トイレ不足、断水での水不足が報道されていました。避難所の環境をよくすれば、災害関連死を防ぐことにもなります。そこで佐倉市の対策を点検してみると、ベッドやトイレが足りない、水対策が不十分、

温かい食事を出す炊き出し訓練をしていない等が判明。中でも生きるため、毎日の生活に欠かせない水不足問題は深刻で、能登地震の被災者も一番に欲しいのは「水」と答えていました。今回の記事の通り、佐倉市の地下水を災害時にも使えるよう、これからはしっかり市に働きかけていかなければと強く思います。そして、志賀原発が停止中で本当によかった、「地震大国日本に原発はいらない！」です。（五十嵐智美）

金山落調査地点略図



## ◆議会質問で手ごたえあり

12月県議会でPFASについて、以下の質問をしました。環境研究センターの先進的な研究成果を、千葉県はなぜ環境政策にもっと活用しないのか。また、金山落の汚染の原因は自衛隊基地だと考えられることから、調査をするべきではないか。事前のヒアリングでは、「自衛隊は国の管轄であり、基地に入って調査するなどとんでもない。話をすることも考えられない」と腰が引けた答弁でした。そこで、直球勝負をやめて、下総基地の周辺市である柏市、白井市、鎌ヶ谷市とはどのような連携をするのか、自衛隊とも連携するべきと訴えました。それが功を奏したのか、「金山落では継続的に高い数値が出ていることから、周辺市と連携しながら、追加調査を検討する。今後自衛隊との連携についても必要に応じて検討していく」と、予想以上の答弁を引き出しました。さらに2週間ほど前、担当職員から「柏市と連携して調査に入る」との報告があり、一歩前進したとホッとしています。これからも県民の健康を守るための活動を続けていきます。

# WATER & THE YANBA

vol. 38

## CONTENTS

- 水とトイレの大切さを再確認 ..... 武笠紀子
  - 第21回総会について / まさのあつこさん基調講演
  - 遠くの水より近くの水 ..... 大野博美
  - 石木ダム建設反対 川原からの便り ..... 岩下すみ子
  - PFASその後 ..... 川口絵未
  - 編集後記 ..... 五十嵐智美
- 編集：猪俣悦子

## 水問題とハッ場ダムを考える千葉の会

代表：武笠紀子・大野博美  
 住所：〒270-0007 松戸市中金杉4-71-2  
 TEL：090-9365-9608（武笠）  
 WEB：「水問題とハッ場ダムを考える千葉の会」で検索してください。

2024年3月15日発行

## 水とトイレの大切さを再確認

元旦に能登半島地震が起きました。被害にあわれた皆様には心よりお見舞い申し上げます。地震は他人ごとではありません。今回の地震では、水とトイレの問題が表面化しましたが、電気の復旧は早いのに対して、水道の復旧は中々進んでいません。この通信でも2面の記事で取り上げましたが、水道事業について改めて学習していきたいと思いました。

また、ダムの役割は、「利水」と「治水」があります。「利水」については、人口減と水需要の低下により、ダム建設の必要はなくなりました。しかし国は、「治水」を根拠とするダム建設を依然として進めています。「ダムと治水」について、再度学びたいと思い、総会での学習会を企画しました。ご参加いただき、ご意見をお寄せください。

（共同代表 武笠紀子）

## 第21回総会について

4月11日（木）13：30～14：00

オンラインで行います  
 （参加はこちらから→  
 引き続き、基調講演も視聴できます）



ミーティングID: 852 0623 4987 パスコード: 163748  
 オンライン総会に参加しない方は書面決議をお願いします。（同封のハガキをご返送ください）

●会費納入のお願い  
 （一口 1000円/年）

会費振込先：00120-5-426489  
 \*会計年度は1月から12月末まで

## 基調講演（オンライン）

## 「ダム問題 流域治水にダムは必要か？」

講師：まさのあつこさん（ジャーナリスト）  
 日時：4月11日（木）14：00～16：00  
 共催：市民ネットワーク千葉県

計報

\*ハッ場ダム住民訴訟をはじめ、水問題について、私たちの灯台となって導いてくださった嶋津暉之さんが、2月16日ご逝去されました。心よりお悔やみ申し上げますとともに、嶋津さんの遺志を引き継ぎ、今後も水問題に真摯に取り組んでまいります。

# 遠くの水より近くの水

大野博美

能登半島地震が起きて3週間ほど経ったある日、テレビで「被災地の輪島市、珠洲市、穴水町に比べ、七尾市の水道の復旧が遅れている」と報じていました。その理由が、水源の違いにあるというのです。

## 「自己水」と「県水」

調べてみると、輪島市、珠洲市、穴水町は、「自己水」と呼ばれる自区内の表流水（河川）や地下水を水源としています。七尾市は自己水と「県水」利用の地域が混在しており、「県水」地域の復旧が遅れているのです。更に調べると、七尾市の県水は、遠く石川県南部の手取川ダムを水源としていることが分かりました。

「自己水」だと地元の水なので、水道管の破損個所の状況がすぐに分かり、復旧も早くなります。

しかし「県水」だと管路が非常に長く、破損個所の特定が難しくなり、復旧が遅れます。

## 走り出すと止められない

この件で、すぐに頭に浮かんだのがハッ場ダムです。私の住む佐倉市では、昔は地下水100%でしたが、地下水くみ上げが地盤沈下の原因となるとして、半世紀も前に、千葉県環境保全条例で「地下水採取規制区域」に指定されました。そのせいで、地下水の井戸を段階的に閉じ、遠く群馬県のハッ場ダムからの水を導入することになったのです。

ハッ場ダムは、現地の反対運動や住民訴訟など紆余曲折を経て、計画から68年も経った2020年に完成、運用を開始しました。人口減少で水需要が右肩下がりの中、総事業費約5320億円という日本のダム史上最高額となったハッ場ダムは、「公共事業は一旦走り出すと止められない」をまさに地で行った事業と言えます。

## 地下水の値打ち

佐倉市では、ハッ場ダムと霞ヶ浦導水が完成すれば、24本の地下水源（井戸）を全て閉じる予定でしたが、東日本大震災で断水が続く中、防災井戸が大活躍したことで事情が変わりました。地下水を災害時のためのバックアップ水源として、揚水量を減らしながらも完全に閉じないで使い続けるよう、計画



(石川県HPより)

変更されたのです。市もようやく地下水の値打ちに気づいたのかと、複雑な気持ちになりました。

## 水も地産地消！

問題の地盤沈下については、佐倉市では半世紀の間地下水をくみ上げ続けて来ましたが、目だつた沈下はありません。毎年、市内の一部で2センチ以内の沈下はありますが、地殻変動の影響も否定できません。

「ダムありき」で、貴重な自己水源である地下水は、今や水道水の51.6%と半減し、将来的には22%にまで減らされてしまいます。

今回の能登半島地震では、冒頭で書いたように、「遠くの水より近くの水」が災害時には頼りになることが証明されたのではないのでしょうか。水も地産地消が一番です。

私たちは、ハッ場ダムをストップさせることはできませんでしたが、これからも「遠くの水より近い水」、地下水の大切さを訴え続けていきたいと考えます。

# 石木ダム建設反対

こうばる 川原からの便り

石木ダム建設絶対反対同盟 岩下すみ子

新しい年を迎え、闘いの日々がまた始まります。1年間の速いことです。

2025年に（9回も延長した）完成予定の石木ダムですが、今、工事用道路の作業が進行中です。50～60年以上たつ山の木々をユンボでなぎ倒し、昔畑だったところを崩し、自然をただただ破壊するのを続行しています。毎日、目にする無駄な事業です。



強制収容された反対住民の田圃には、石と土砂が搬入されていた。もう米は作れない。

日本の各地で想定外の莫大な災害が発生している中に、権力で不要な石木ダムを強行している長崎県は、時代にそぐわない!! 時代遅れです!!

半世紀以上反対している地権者がいるのです。現在もボーリング調査が行われています。軟弱な地層で適していないと、専門の学者の方々が何人も指摘されています。石木川まもり隊をはじめ、全国各地で支援の輪も広がっています。皆様の声が、がんばっていける力になっています。



2023.11.26、佐世保市の市民グループ「#ダムより花を」が四ヶ町アーケードで街頭シールアンケートを実施。

2年前に新知事になり、「時代に合った社会機能の効率化推進を訴え、39歳の若さで当選され、少しは変わるかもしれないと思いましたが、今までと同じで何の変化もなく、知事は5代目です。

知事も職員も何代も変わり、変わらないのは地権者だけ。長い間、がんばってきた父母も亡くなり、私たちがだんだん高齢者になりました。人権無視の事業である!!

佐世保の水道管は老朽がひどく、改修工事をすれば水源不足を解消できるのです。人口減少が進む中、本県は33%も減少するそうです。よく考えてほしいものです。



代替道路工事現場の中心にある抗議の座り込みテント前 2022.12.7



抗議の座り込み用テントのギリギリまで土砂を投入。2023.8.4

いろいろなことがあるのですが、何よりも私たちはこの地から離れて暮らすことはできません!! ホタルが舞い、絵画の中で見るような四季折々、人が暮らすのに住みやすいところです。おいしいお米がとれ、おいしい野菜もよく育ち、川があり、山があり、人々が求めている安住の地ではないでしょうか？ 本当にダムの問題さえなければと思います。自分たちの生活を守るため、これからも希望を持って生きていきたいと思ひます。